

薬学部生の就職率100%

徳島新聞

2012年(平成24年)6月25日 月曜日

薬学部生 引っ張りだこ

徳大・文理大も求人増



薬局145社を集めて開催された合同企業説明会。超売り手市場で企業側は人材確保に苦戦している。2011年12月11日、徳島文理大学(同大提供)

6年制移行 薬剤師供給不足

徳島大学や徳島文理大学など全国の薬学部生の就職戦線が、学生側優位の「超売り手市場」になっている。2006年に薬学部が4年制から6年制に移行、卒業生が極端に少ない2年間の空白期間が生じ、薬剤師が供給不足になっているためだ。県内2大学の求人数は4年制当時より大幅に増え、学生にとってはより取り見取り。一方、県内の薬局や病院、ドラッグストアは「地方は特に人材確保が難しくなった」と頭を抱えている。

6年制最初の学生が卒業、かつたが、適切な人材が来した11年度、全国の薬局や「徳島大によると、いち早く病院が一斉に薬剤師確保に」と、徳島大によると、いち早く動いた。11年度の求人数は、くい人材を確保しよう徳島大約5千人、文理大約5900人。4年制最後の5月から内々定が開始学生が卒業した08年度に比たという。大学を訪れる薬べて千人以上の増。学生に局も増え、中には首都圏から人気なのは病院や大手薬局、初め徳島を訪れた企業で、徳島市のある薬局の探もあつた。

用担当者は「新卒者がほし 徳島大薬学部6年の金城

県内薬局など「人材の確保困難」

奈美さん(23)は「みんな一つは内定を持っているのは。志望する薬局にすんなり就職を決める友達も多い」と言う。個別説明会や職場見学の場で早々と内々定を得る学生もいるという、ある大学関係者は「学生を選ばず採用している薬局もある」と疑問を投げかける。薬局などが人材確保に苦労する中でも地方の薬剤師不足は深刻だ。県西部に8店舗を展開する三好市の調剤薬局の採用担当者は「都会志向が強いためか、Uターン者は少ない。内定を出しても辞退され、若い人材確保が難しい」とこぼす。文理大就職担当の角田鉄人教授は超売り手市場に「学生の希望に沿った就職ができ、有利な状況」と歓迎する一方、少ない薬剤師を奪い合う現状を問題視。「都市部に人が流れ、地方は深刻な不足が続くだろう。企業努力だけで人材を確保するのは難しい」と指摘した。(大塚康代)

就職活動

薬学部生 超売り手市場

厳しさが続く大学生の就職活動だが、対照的に企業や病院の採用担当者から引く張りだこなのが薬学部の学生たちだ。薬学部が4年制から6年制に移行し、卒業生が極端に少ない空白期間が生まれた影響で、「超売り手市場」になっている。「どんな学生でもいい」と漏らす企業もあり、争奪戦は熱を帯びている。

薬剤師の国家試験を受け、学生など少数に限られている。薬学部での履修が条件。薬療法の高度化を受け、薬剤師の専門性を高めようと、2006年4月の入学生から薬学部は6年制になった。4年制「最後」の学生は09年3月に卒業し、6年制最初の学生は今年3月に卒業。この間の10年3月と11年3月の卒業生は留年した

学生など少数に限られている。5月26日、東京都内で開かれた薬学部生対象の就職セミナーで、地方から来た薬剤局の採用担当者が打ち明けた。別の担当者も「一般の学生は20社の面接を受けるが、薬学部生は逆に20社から誘いを受けるというほど、完全な売り手市場」と説明する。昭和大薬学部6年の武田

6年制に移行した薬学部生



茉莉子さん(23)は「多くの企業から、入社してほしいという熱意が伝わってくる」と笑顔を見せた。

6年制移行 空白期間響く

日本大薬学部(千葉県船橋市)では、今春卒業した学生の就職率が100%。卒業生約200人は、早々と大手ドラッグストアや病院などへの就職を決めたという。

一方、人材不足は地方でより深刻に現れている。岩手県の薬剤師会は、東北地区の大学の就職説明会に積極的に参加し、地元への呼び込みに力を入れている。「腰を落ち着けて働いてくれる地元出身の薬剤師を増やしたい。6年制の新卒が出たが、今年の採用はまだ十分とはいえない」と担当者。

九州の薬剤師会の担当者は「地方の薬剤師不足は慢性的だが、大都市部での争奪戦に地方が割り込む余地はほとんどない」と嘆いた。